

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（女川原子力発電所 2号炉工事計画）（52）
2. 日 時：令和3年1月22日 13時30分～17時00分
3. 場 所：原子力規制庁 8階A会議室（一部TV会議システムを利用）
4. 出席者：（※ TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

止野上席安全審査官※、植木主任安全審査官、片桐主任安全審査官、
三浦主任安全審査官※、皆川主任安全審査官、土居安全審査専門職※、
服部安全審査専門職、山浦技術参与、西澤原子力規制専門員
技術基盤グループ 地震・津波研究部門
堀野技術参与※

東北電力株式会社：

原子力本部 原子力部 課長 他1名
原子力本部 原子力部 部長、他5名※

5. 要 旨

- （1）東北電力株式会社から、女川原子力発電所 2号炉の工事計画補正申請のうち、制御棒の耐震性及び原子炉本体基礎の復元力特性について、提出資料に基づき説明があった。
- （2）これに対し、原子力規制庁は以下の点について指摘等を行うとともに、今後、説明内容について引き続き確認することとした。

【補-600-16 制御棒の挿入性評価について】

- 制御棒挿入性試験による確認済相対変位について、許可時から値を変更した考え方も含め、試験結果から約60mmと設定した考え方を整理して提示すること。
- 制御棒挿入性試験における保守性の確認において、入力波条件の相違に対する75%ストロークスクラム時間の結果を、複数の燃料集合体相対変位に対して提示すること。
- 制御棒のスクラム時間を解析する計算機プログラム（CR-IN）について、制御棒の挿入運動式及びチャンネル中央相対変位振動方程式における各パラメータの設定値及びその根拠を提示すること。
- 燃料集合体に対する鉛直方向加速度の影響について、影響検討に用い

た既往知見結果が、女川2号炉で適用可能であることを整理して提示すること。

【補足－600－8－3 建屋－機器連成解析モデルにおける原子炉本体の基礎の非線形復元力特性等の設定に関する補足説明資料】

- RPV ペDESTALのスケルトンカーブについて、直線近似による不確実性を考慮した設定としていることを整理して提示すること。
- RPV ペDESTALのコンクリート強度の初期剛性低下に係る補正係数について、原子炉建屋の耐震壁の初期剛性の設計値に対する補正係数を用いている考え方を整理して提示すること。
- RPV ペDESTALの剛性に対する影響確認において、RPV ペDESTALの内部コンクリートの剛性を実強度に基づく値とした場合の地震応答結果に対する設計裕度を定量的に整理して提示すること。

(3) 東北電力株式会社から、(2) について了解した旨の回答があった。

なお、本面談については、事業者から対面での面談開催の希望があったため、「新型コロナウイルス感染症対策に係る原子力規制委員会の対応の一部変更について」(令和2年6月24日 第12回原子力規制委員会配付資料)に基づき、一部対面で実施した。

6. その他

提出資料：

- (1) 女川2号工認 指摘事項に対する回答整理表(耐震評価：制御棒挿入性試験)(O2-他-F-19-0015__改0)
- (2) 女川2号工認 指摘事項に対する回答整理表(耐震評価：原子炉本体基礎の復元力特性)(O2-他-F-19-0010__改1)
- (3) VI-2-6-2-1 制御棒の耐震性についての計算書(O2-E-B-19-0051__改0)
- (4) 補足-600-16 制御棒の挿入性評価について(O2-補-E-03-0600-16__改0)
- (5) 補足-600-8-3 建屋－機器連成解析モデルにおける原子炉本体の基礎の非線形復元力特性等の設定に関する補足説明資料(O2-補-E-03-0600-8-3__改0)

以上